

現代中国語の逆行型述補構造について

島村典子

〈提要〉

現代汉语中有一种述趋式，在客观世界里它的述语动词所表示的事件发生在趋向补语所表示的位移事件之前，因此可以叫做“逆行型述趋式”（简称为“逆行型”）。逆行型由于违背了汉语的时间顺序原则（the principle of temporal sequence），因此该结构一般被认为是非典型的述趋式。本文以逆行型述趋式为研究对象，通过考察与连谓结构的置换关系来阐明逆行型的语义、结构上的特点，并指出该结构在逻辑层次上应符合“原因——结果”的时间顺序原则。

0. はじめに

本稿は主体移動を表す述補構造（VD）のうち，以下のように述語動詞（V）と方向補語（D）の表す意味関係がいわゆる「時間順序原則」（Tai1985）¹⁾ に反するケース（以下，本稿ではこのような意味関係を成す述補構造を「逆行型述補構造」と呼ぶ）についての考察を行う。

- (1) 我们几个站出酒楼门等她，我对他们说我和张璐去飞翔你们先回去。²⁾（王朔《橡皮人》）
 （我々数人はホテルの入り口に（出て）立って彼女を待った。私は張璐と飛翔に行くので，先に帰ってくれと彼らに言った。）

例文（1）の述語動詞“站”は，移動主体が“出”という移動を終えた後にとる姿勢を表している。このように，逆行型述補構造（以下，「逆行型」）は，形式上先行するVが形式上後続するDに遅れて実現する動作を表すため，中国語の時間順序原則に則る類像性（iconicity）に反するものとされてきた（柯理思 2003:5）。以下では，主体移動を表すVDというカテゴリーの中で，一見特異な意味関係を有する逆行型をどのように位置付けるべきかを考える。

1. 時間順序原則について

具体的な考察に入る前に，ここでは Tai1985 の時間順序原則（the principle of temporal sequence、以下「PTS」と略記）について簡単に説明する。

PTS は「2つの統語単位の相対的な順序は，両者が概念領域において表す状態の時間的な順序によって決定される」（同上 :50）という原則である。PTS は汎用性が高く，中国語のさまざま

な統語成分の語順に適用される。ここでは結果補語 (R) から成る述補構造 (VR) のケースを見てみたい。

(2) 他念完了这本书。(彼はこの本を読み終わった。)

1 2 3

He has finished reading this book.

3 2 1

(3) 他做成了这件工作。(彼はこの仕事をやり遂げた。)

1 2 3

He has succeeded in doing this job.

3 2 1

(以上, Tai1985:53)

(2) の VR “念 (読む) — 完 (終わる)” (読み終わる) と (3) の “做 (やる) — 成 (完成する)” (やり遂げる) は、いずれも「動作 — 結果」という時間軸上の自然な順序に従って配列されている。一方、対応する英語訳から、PTS は英語の語順には適用されないことがわかる。VD と VR が相似した意味機能を有することは多くの先行研究において指摘されているとおりであり³⁾、Tai1985 には明記されていないが、PTS は VD の語順にも適用されて然るべきであろう。逆行型の考察では、当該の構造にも PTS が働いていると考えるか、逆に逆行型を PTS の反例と見なすかが大きな問題となる⁴⁾。次に、逆行型に関する先行研究について見てみたい。

2. 先行研究と問題点

逆行型に関する先行研究はあまり多くなく、断片的な記述が散見される。この問題に初めて言及したのはおそらく肖国政・邢福义 1984 であろう。同論文によれば、逆行型の V は D の「目的」を表すとされる。また、このような VD を含む文を「動作主 + 为什么而趋来」(動作主は何のために“趋来”するのか) で問うことができること、および“动/趋来”を“趋来动”に置換できることを形式上の基準としている⁵⁾ (肖国政・邢福义 1992:576)。

(4) 只见三个戎装妇女 — 阿积、云姑、月姑打着一盏灯笼，巡逻过来。

(ふと見ると、軍装した婦女 3 人 — 阿積、雲姑、月姑が提灯を提げて見回りにやっ
て来た。)

→ 为巡逻而过来 (見回りのためにやって来る)

→ 过来巡逻 (やって来て見回りする)

(同上 :576)

肖国政・邢福义 1984 では 2 つの形式的基準、特に“动/趋来”から“趋来动”への置換によっ

て、“動”と“趋来”の間に線的な連続関係が存在しないことが明らかにされている。逆行型のVが目的を表すという指摘は荒川 2006 にも見られる。

荒川 2006:4 は、逆行型を「Vという動作を目指した動き」を表すものと考えている。このような意味関係は“坐（座る）、站（立つ）、躺（横になる）”のような身体全体の動作においてしばしば見られ、これらのVは本来的に状態を表すという。

- (5) 那边还有空位子，你坐过去吧。（用例・訳文ともに荒川 2006:11）
 （あそこにまだ空席があるから、あっちへ行っておすわりなさい。）

(5) では、移動主体が移動前にとる姿勢は何でもよく、また途中に「歩く」という動作が入ることもあるが、最終的に“坐”の状態になればいいと説明される（同上 :11）。

孟琮 1987:244-245 は逆行型の VD で表される動作の実際の順序が「D+V」であることを明示し、V が包含する方向と D が表す方向とが一致しないケースとして以下のような例を挙げている。

- (6) 睡上床去（ベッドに上がって寝る）
 睡过去一点儿（少し向こう側に寝る）
 坐上台来（壇上に上がって座る）
 坐回去（戻って行って座る）
 坐进去（入って行って座る）

上述した先行研究は逆行型を PTS に反する特殊な現象として認識しているが、この現象と PTS の間にいかなる折り合いをつけるかという問題については見解が示されていない。これに対し、王红旗 2002、杉村 2012 は逆行型の V と D の間の意味関係や、逆行型が形成される動機についても言及している。

- (7) 躺上来（上がって横になる）
 站过来（やって来て立つ）
 坐上来（上がって来て座る）
 睡进来（入って来て寝る）

王红旗 2002:11 によれば、上例のVはある地点に固定された動作を表し、この動作自体は移動を表さないが、理想化認知モデル⁶⁾に基づけば、この動作を行うためにはそれ以前に固定点まで移動しなければならないとされる。この移動プロセスは付随的なものである。つまり、これらのV自体は移動を含意しないが、このような動作を行うときには移動が付随して生じるとされる。

また、杉村 2012 は「終端プロファイリングによる系列動作統合」というイベント統合の事象

把握によって、逆行型にも因果関係を見出すことができると指摘している。

- (8) 裁縫老婆……从家里抱来一个肥皂箱子，倒扣过来，叫矮男人站上去。(杉村 2012:136)
 (裁縫職人の妻は…家から石けん箱を抱えて来て、ひっくり返し、背の低い男にその上に立つよう指示した。)

杉村 2012:136 によると、上の用例には移動前と移動後における新旧2つの“站”が含まれ、新しい方の“站”がプロファイリングされているという。終端状態の“站”は始発状態から終端状態までの一連の動作を統合することにより、“上去”という移動を状態間移行によって生じた「結果」としてとらえることが可能となり、このような事象把握は「終端プロファイリングによる系列動作統合」と呼ばれる。

本稿も逆行型のVとDの間には因果関係が存在すると考えるが、本稿は別の切り口——特に述連構造との置換関係から逆行型の意味および構文の特徴を考察し、これを基に逆行型が表す因果関係について考える。

次に、各先行研究が挙げている用例からわかるように、逆行型に生起するVは専ら姿勢動詞である。先行研究では姿勢動詞に[+方向]の意味特徴を認めているものがあるが、これは姿勢動詞が状態ではなく、変化を表すことを意味すると解釈できる。一方、王红旗 2002, 荒川 2006 等は姿勢動詞が本来的に表すのは状態であると考えている。姿勢動詞は変化を表すのであろうか、それとも状態を表すのであろうか。次節ではまず姿勢動詞の特徴について検討を行う。

3. 姿勢動詞とその動詞範疇

従来の研究において、姿勢動詞は動作動詞、状態動詞、静態動詞、変化動詞という異なる動詞範疇に帰属させられてきた。ここでは、先行研究における動詞範疇の定義に留意しながら諸説を概観したい。なお、以下では姿勢動詞の表す姿勢の状態を「姿勢の持続」、姿勢の変化を「姿勢の変更」と考える。

3.1. 姿勢動詞に関する先行研究

ヤーホントフ 1957の研究では、アスペクトおよびアスペクト・テンスのマーカールとの結合能力の違いに基づき、動詞が「動作動詞」と「非動作動詞」に二分されている。動作動詞には狭い意味での動作を表す動詞のみならず、状態(や状態の変化)を表す動詞も含まれる(ヤーホントフ 1987:128)。姿勢動詞は状態動詞と称され、有限動詞⁷⁾、無限動詞⁸⁾とともに動作動詞の下位類に属する。しかし、ヤーホントフは姿勢動詞(ヤーホントフの状態動詞)は瞬間に進行する動作を表さない点が有限動詞に似ており、またこの種の動詞にアスペクト助詞“了”が付加されることはごく稀であることから⁹⁾、姿勢動詞と非動作動詞との類似性にも言及している。また、姿

勢動詞の意味する状態は結果とは無関係であるため、姿勢動詞は意味的には無限動詞に似ているとも述べている。特記すべきは、ヤーホントフが「方向の意味を有する修飾形式¹⁰⁾も、このグループの動詞につくとき、状態の開始という補足的な意味をそえる」という現象にすでに着目していた点である（同上 1987:133）。

(8) 坐（腰掛ける）— 坐下、坐下来（坐りこむ）（用例・訳文ともにヤーホントフ 1987:133）

即ち、姿勢動詞はDを伴うと「姿勢の変更」を表すという現象がヤーホントフ 1957 でつとに指摘されていたのである。

荒川 1980:329 は、“躺（横になる）、坐（座る）、蹲（しゃがむ）、趴（うつぶせになる）、站（立つ）”等の姿勢動詞は一種の状態動詞と考えられるが、「実際にこれらの動詞が使われるのは、“V在”，“V着”のように“在”や“着”と結合してであり、動詞そのものについては、〔+状态的〕な接辞がつかない場合は bound form ともいえるものである」と述べている。また、姿勢動詞は“坐”を除いて通常単独では命令文にならず、命令文にする場合は方向動詞を付加して「過程性」をもたせなければならないことも指摘している。

(9) a. *你躺吧。

b. 你躺下吧。（横になりなさい）（用例・訳文ともに荒川 1980:329）

ヤーホントフ 1957, 荒川 1980 では姿勢動詞の二面性が示唆されているが、その二面性がいかなる現象を指すのかについては明確にされていない。姿勢動詞の二面性を機能の違いとして具体的に示したのが李臨定 1985 である。同論文は、1つの動詞が動態機能と静態機能という2つの機能を兼備するという現象を示し、この種の動詞と2つの機能が具現される構文との相関性について論じている。問題の姿勢動詞は動態機能と静態機能を兼ね備えた動詞であり、両機能の区別は各構文（「動態の構文」と「静態の構文」）においてはじめて観察することができるとされる¹¹⁾。李臨定 1985 には姿勢動詞の動態機能を示す用例が挙がっていないものの、後の李臨定 1990 から、李臨定 1985 の静態機能は「姿勢の持続」を、動態機能は「姿勢の変更」を指すものであることが推断できる。

李臨定 1985 の観点を継承し発展させたのが陳平 1988 である。陳平 1988 はテンス・アスペクトマーカを除いた文を対象に、中国語の時相 (phase) 構造¹²⁾ を状態 (state), 活動 (activity), 到達 (accomplishment), 複合変化 (complex change), 単純変化 (simple change) という5つの事態タイプ (situation type) に分類している。姿勢動詞はこのうち状態, 活動, 到達, 単純変化の各事態を表す文に生起する典型的な動詞であるとされる。以下に姿勢動詞が状態, 単純変化を表す用例を転載する。

- (10) 我放开她的手，怔怔地站在那里，觉得仿佛是在做梦。(陈平 1988:407) 【状態】
 (私は彼女の手を離し，呆然とそこに立ち尽くしていた。まるで夢を見ているかのようだった。)
- (11) 宋科长一下子坐在椅子上，半晌说不出一句话来。(同上 :413) 【単純変化】
 (宋科長はさっと椅子に座ると，長い間何も言うことができなかった。)

このような事態タイプの分類では，動詞の語彙的意味によって文がどのタイプの事態を表すことが可能であるかが決定され，動詞と共に起るその他の成分によって所与の文が実際にどのタイプの事態を表すかが決定される。そのため，上掲した用例のように述語動詞の語彙的意味以外に“在+場所”といった前置詞フレーズ（原文の用語に従う）やコンテキスト等も事態タイプの確定に関与することになる。陈平 1988 は姿勢動詞がさまざまな事態を表す文に生起し得ることを示し，その事態タイプの確定（「姿勢の持続」を表すか，「姿勢の変更」を表すかといったことも含めて）には動詞以外の成分やコンテキストといった要因も関わってくることを示した点で新たな知見を提示したといえよう。

最後に，姿勢動詞を主たる研究対象とした彭広陸 2000 の研究を見てみたい。同論文は姿勢動詞を状態性の意味特徴をもつ動作動詞であると考え。これは，中国語の姿勢動詞自体（いわゆる「裸の動詞」）が姿勢の継続を表し得るという理由によるが，その根拠は“罰站（罰として立たせる），罰跪（罰として跪かせる）”のような二音節動詞が姿勢の変更ではなく，姿勢の継続を表すからであるとされる。しかし，根拠となる言語現象に典型的な単音節動詞ではなく，二音節動詞が用いられている点は問題である。また，姿勢動詞が「姿勢の継続を表す時には，姿勢動詞に『着』というアスペクトのマーカがついている，つまり継続相の形を取る場合が多い」（同上 :52）という指摘自体も裸の姿勢動詞が姿勢の継続を表すという論点に抵触するものであると考えられる¹³⁾。さらに，姿勢の変更を表す場合は，姿勢動詞そのものが状態を表すため，方向補語を伴うことによって姿勢動詞に変化性を賦与しなければならないという指摘もあるが（同上 :54），この現象は姿勢動詞が姿勢の継続を表す際に“着”という文法形式を伴うことと同じレベルの話であると思われる¹⁴⁾。彭広陸 2000 が姿勢動詞を動作動詞と見なすのは，姿勢動詞が命令文に使用されるという理由により，この点はヤーホントフ 1957 に通ずる。

3.2. 姿勢動詞の語彙的意味

以上，先行研究において姿勢動詞がどのような動詞範疇に分類されているのか，その分類基準等も含めて概観し，問題点を適宜指摘した。先行研究の多くが何らかの形で姿勢動詞の二面性に言及しており，姿勢動詞を一枚岩に論じていることはない。本稿は先行研究のうち，李临定 1985 および陈平 1988 の観点に立脚する。両研究の共通点は，姿勢動詞そのものを動作動詞あるいは状態動詞とは考えていない点にある。上述したように，李临定 1985 は姿勢動詞が，それが生起する構文に縛られて静態機能あるいは動態機能を表すという現象に着目し，陈平 1988 も同様に姿勢動詞が表すことのできる事態タイプは多様であり，文中のその他の成分や文脈によって

所与の文の事態タイプが確定されると主張している。これは、言語事実に最も即した観点であると思われる。以下では、李臨定 1985 の姿勢動詞の静態機能を「姿勢の持続」、姿勢動詞の動態機能を「姿勢の変更」と定義し、李臨定 1985、陳平 1988 の観点を援用して姿勢動詞の語彙的意味を考えてみたい。

彭広陸 2000 は姿勢動詞が本来表すのは状態であり、裸の姿勢動詞は姿勢の継続を表すと述べている。しかしこれについては、中国語の姿勢動詞は文法形式を伴わず、裸で用いられることがきわめて少ないという事実が問題となる。

たとえば、日本語の姿勢動詞は完成相（スル）の形で姿勢の変更を表し、継続相（シテイル）の形で姿勢の持続を表すとされるが¹⁵⁾、中国語の姿勢動詞は (12) のように単独で述語となる自足性に欠ける。

(12) *他站。¹⁶⁾(彼は立つ。)

*他躺。(彼は横になる。)

さらに、姿勢動詞は通常“坐”を除いて単独では命令文にならず、命令文を構成するには適当な方向補語を補わなければならないことが報告されている（荒川 1980:329）。つまり、姿勢動詞は姿勢の変更を表す場合にも通常は方向補語といった文法形式が必要となるのである。以上の内容から、姿勢動詞そのものが姿勢の持続や姿勢の変更を表すと結論付けることは困難であり、両事態を表す場合は、いずれも何らかの文法形式が必要となることがわかる。つまり、中国語の姿勢動詞自体の語彙的な意味特徴は弱く、文法形式や構文との意味的協働によってその意味特徴を確定すると考えられる。

4. 逆行型述補構造

ここまでの考察では、逆行型に生起する姿勢動詞は動詞そのものの語彙的な意味特徴が希薄で、姿勢の持続・変更を問わず、いずれも文法形式や構文の協働が必要となるという結論を導いた。以下では逆行型の具体的な考察を行う。

既述のとおり、肖国政・邢福义 1984 は、逆行型では“动/趋来”を“趋来动”に置換できるとしていた。これは事実上、述補構造から述連構造への置換になり、実例においても述補構造の表す事態が述連構造によって分析的に表現されるケースが観察される。以下の例を見られたい。

(13) 老太太高兴的伸手拍了拍床沿，示意叶琰坐过去。叶琰硬着头皮走过去坐下，感觉自己就好像被人强行拖去相亲一样，那种尴尬真不知道该如何形容，肠子都快悔断了，为什么一时心软答应田妮妮？(<http://www.89read.com/html/book/40/40945/2043701.htm>)

(お婆さんは嬉しそうに手を伸ばしベッドのへりを叩いて、葉琰にそっちに行つて座

るよう合図した。葉琰は嫌々ながらも（歩いて）行って腰を下ろした。強引に見合いをさせられるような気まり悪さは本当に形容しがたく、後悔で腸がちぎれそうである。何で一時の情にほだされ田妮妮の頼みを聞いてしまったのだろう。）

上例における“坐過去”という表現は「①(走)過去+坐下」というように、2つのイベントを統合 (integration) させた表現であることが窺える。即ち、“坐過去”が客観的世界で表す動作の順序は「移動+姿勢の変更」なのである。この場合、“坐過去”を“(走)過去坐下”に置き換えても知的意味 (cognitive meaning) は保たれる。

(13') 老太太高兴的伸手拍了拍床沿，示意叶琰过去坐下。

しかしながら、単に述補構造を述連構造に置換できるというだけでは、両者の間に棲み分けがないことになってしまう。また、時間順序原則に則った述連構造で表現可能な事態が、時間順序原則に反した述補構造で表される動機 (motivation) も明確ではない。また、実例の中には、述補構造が上記のように明確な2つのイベントを表さないために、述連構造への置換が困難となるケースや、述補構造を述連構造に置き換えると意味に齟齬が生じ、文意を損なうケースも存在する。以下では、このように述補構造と述連構造の置換が成立しにくいケースから、逆行型の特徴を分析する。

4.1. 述補構造と述連構造の置換が難しいケースから

4.1.1. 意味的要因

4.1.1.1. 移動空間の違い

述補構造と述連構造の置換が難しい理由の1つに、両者の指す移動空間が異なることが挙げられる。

(14) “坐到中间来一点，坐挤一点，大家尽量坐挤一点，请你坐进来，这个空位不要留着，坐挤一点，快点坐挤一点，不要看别人，就是你们。” (<http://www.docin.com/p-4213630.html>)
 (「もう少し真ん中に座ってください。もう少しつめて。皆さんできるだけつめて座ってください。あなたも真ん中の方に座って。この席を空けないで。もう少しつめて座ってください。早くもう少しつめて座ってください。人のことを見てないで、あなたたちのことですよ。)

(14') # “坐到中间来一点，坐挤一点，大家尽量坐挤一点，请你进来坐，[…].”¹⁷⁾

[図 1]



[図 2]



(14) の“坐进来”が表すのは [図 1] に示されるような移動であり、部屋の中心部以外の位置から中心部 ([図 1] の点線部分) へ移動することを表す。当該の移動には物理的な境界が存在しないが、話し手の視点によって主観的な境界が成立している。一方、(14) の述連構造“进来坐”を用いると、[図 2] のように部屋の外にいる人間を部屋の中に移動させる発話となり、両者に有意な差異が生じる。述連構造における“进来”は客観的な境界によって仕切られた空間内部への移動を表し、“坐进来”が表すような主観的な空間への移動を表すのは困難である¹⁸⁾。同様に、以下の例でも述補構造と述連構造の表す移動空間に相違が見られる。

(15) “谁教你整个人都缩到下面去？你给我躺上来一点，我现在要将你的伤口缝合，听见了没有？”

(「誰が下の方に縮こまれと言いました。もう少し上の方に寝てください。今からあなたの傷口を縫いますよ。聞こえましたか。)

(15)' # “谁教你整个人都缩到下面去？你给我上来躺 (好)¹⁹⁾，我现在要将你的伤口缝合，听见了没有？”

[図 3]



[図 4]



(15) は医者が発療台に横たわっている患者に対して発した言葉である。“躺上来”は診療台の足元の方に縮こまった患者に対し、診療台の上の方に寝るよう指示したものである ([図 3] 参照)。文中の“下面”は診療台の足元の方を指す。一方、(15) の“上来躺 (好)”は診療台に上がっていない状態から診療台の上へ移動することを表す ([図 4] 参照)。このように、述補構造と述連構造が表す移動の空間が異なるために、両構造の置換が成立しないケースが観察される。

4.1.1.2. 動詞の意味変化

以下の例は、述補構造における姿勢動詞が字義どおりの意味を表さないため、述連構造に置き換えると意味にズレが生じ、ひいては文意を損なうものである。このようなケースは“进”類²⁰⁾との組み合わせに多く見受けられる。

(16) 她厉声喝问道：“胡说，既然你这么急，为什么不随便找一个蹲进去，为什么要一个一个推开来看，你还说你不是跟踪我。”

(<http://www.qidian.com/BookReader/18647,446159.aspx>)

(彼女は激しい口調で問いただした。「嘘よ、そんなに急いでいたなら何で適当に入って用を足さないのよ。何で一つ一つドアを開けて中を見たのよ。まだ私の後をつけていたのではないと言い張る気。)」

- (16')??她厉声喝问道：“胡说，既然你这么急，为什么不随便找一个进去蹲下，为什么要一个一个推开来看，你还说你不是跟踪我。”

(16')の述連構造“进去蹲下”は構造上の特徴から、「①入って②しゃがむ」という2つのイベントを明確に区別し、“蹲”の原義である「しゃがむ」という意味に焦点があたるため、文の整合性に欠ける。一方、(16)の述補構造“蹲进去”の“蹲”は「しゃがんで用を足す」という意味までを射程内に収めるため、両構造の意味にズレが生じる。(16)ではVにメトニミー(metonymy)²¹⁾による意味拡張が生じていると考えることができる。即ち、「しゃがむ」という動作で以て、その動作の後に続く「用を足す」という意味を指示しているのである。「しゃがむ」と「用を足す」は時間軸において隣接関係にある2つの動作であり、時間的隣接関係によるメトニミー的拡張であるととらえられる。次の例を見られたい。

- (17) 以后，我差不多每个月都去看一次娘娘，直到1995年春天我患了肝炎，躺进了隔离病房。

(彭新琪《现实生活中的瑞珏》)

(その後、私は1995年の春に肝炎を患い隔離病棟に入るまで、ほぼ毎月叔母に会いに行った。)

上例の“躺进了隔离病房”は当然のことながら「隔離病棟にある病室に入って横になった」ことを意味しているわけではない。これは“躺进了隔离病房”全体で「隔離病棟に入院した」という意味を表しているのであり、“躺”とは入院中の患者にとってデフォルト値となる姿勢である。

このように、述補構造では姿勢動詞が字義どおりの意味を表さないケースが存在する。(16)、(17)はいずれも述補構造内部の意味的な一体化が進んでおり、全体で部分と部分の総和以上の意味を表す。一方、述連構造の姿勢動詞は字義どおり姿勢の意味を表すため、この場合、述補構造を述連構造に置き換えると意味にズレが生じてしまう。

4.1.1.3. 意味的重点の違い

述補構造と述連構造では、意味的な重点が異なる。述連構造の2つの構成部分(V₁, V₂)²²⁾は互いに独立していて(沈立新 2004:41)、典型的にはV₁とV₂によって表される2つの動作が継行的に行われることを表すが、その意味的な重点はV₂にある(赵淑华 1990:7)。さらに、V₁が移動事象を表し、V₂が姿勢動詞である場合、V₂は姿勢の変更を表す場合が多い。下の表は、“(V)来/去”に姿勢動詞が後続する場合の姿勢動詞の文法形式を調査したものである²³⁾。

[表 1]

	“在”+ 場所名詞	重ね型	裸	時 量 目的語	“下来/去” 場所目的語	“着”	その他の 補 語	“到”+ 場所名詞	“一下”	計	
(V)来/去坐	86	144	104	49	40	17	17	3	8	6	474
(V)来/去站	44	4	1	5	/	12	8	12	6	1	93
(V)来/去躺	13	10	/	12	10	/	6	/	1	/	52
(V)来/去蹲	4	/	/	1	4	17	3	2	/	/	31
(V)来/去跪	14	1	2	/	3	2	1	2	/	/	25
(V)来/去趴	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2
計	163	159	107	67	57	48	35	19	15	7	677

[表 1] から、姿勢動詞は述連構造の V₂ となる場合、結果補語“在”を伴い場所名詞を導く形式をとることが最も多いことが看取できる。この場合、「姿勢動詞+“在”+場所名詞」は姿勢の変更を表す。

- (18) 方方开门送她们出去，回来坐在吴迪旁边和她说话。(王朔《一半是火焰，一半是海水》)
 (方方はドアを開け彼女たちを送り出すと、戻って来て呉迪の隣に座り彼女と話をした。)
- (19) 我发觉了，过去站在他身后看。(阿城《棋王》)
 (私は気付くと、そっちに行って彼の背後に立って見た。)

その他では、姿勢動詞が重ね型である場合、および裸のまま用いられるケースが顕著であるが、これはいずれも姿勢動詞が“坐”である場合に偏っている。用例を見られたい。

- (20) 有空请到我这里来坐坐。(周而复《上海的早晨》)
 (時間があったら私のところに遊びに来てください。)
- (21) 等有空再来坐坐吧！(冯德英《苦菜花》)
 (暇ができたならまた遊びに来ますね！)

(20) の重ね型“坐坐”も、(21) の“坐”も純粋な姿勢の意味を表さず、「(家に)遊びに来る、立ち寄る」という意味に転じている。なお、“坐”が裸のまま用いられ、純粋な姿勢を表す場合は基本的に姿勢の変更を表す。

- (22) 来，来，都请过来坐坐！（谌容《梦中的河》）
 (さあさあ、みんなこっちに来て座ってください！)

即ち、述連構造の V₂ が“坐”である場合、“坐”が重ね型であったり、裸のまま用いられることが多いのは“坐”に純粋な姿勢以外の特殊な意味があることや、“坐”が単独で姿勢の変更を

表し得ることに起因する。このような例外を除けば、述連構造のV₂として生起する姿勢動詞は通常姿勢の変更を表し、意味的な焦点となる²⁴⁾。

一方、述補構造では意味的な重点はDに置かれる。次の例を見られたい。

- (23) “站上来，站上来，别堵着车门，上来，站上来。”(<http://www.guli.cc/8637/3642509/>)
 (「上がって，上がって。扉を塞がないで。上がって，上がって。」)

(23)はバスの運転手が扉付近に立っていた乗客に向かって発した言葉である。この例では、“站上来”が反復して使用されているが、文中にも示されているように、“站上来”は“上来”で代替することが可能である。即ち、述補構造“站上来”の意味的な重点はD“上来”の表す移動にあることがわかる。(23)では、移動主体である乗客はもともと“站”という姿勢をとっている。“上来”という移動が終了すると同時に再び“站”という姿勢に移行はするものの、“站”という姿勢を取り立てて描写するものではない。このような述補構造を述連構造に置換しようとしても、述連構造の姿勢動詞が裸で生起することは稀なため、“着”のようなアスペクト助詞を伴うことになり、述連構造は姿勢の維持を強調する形になる。そのため、両構造の間に有意な差異が生じ、意味的な焦点がずれてしまう。

以上の考察から、述補構造の意味の重点はDが表す移動にあり、述連構造では意味の重点が姿勢動詞の表す姿勢の局面に置かれていることがわかる。

4.1.2. 構文的要因

4.1.2.1. 後続する動作行為を展開させる機能

文法的には述補構造から述連構造への置換が可能であるが、置換後の表現が煩雑性を招くケースがある。

- (24) 娄红的母亲换完衣服也坐过来加入谈话。(皮皮《比如女人》)
 (婁紅の母親も着替え終わるとやって来て座って話に加わった。)

- (24') 娄红的母亲换完衣服也过来坐下加入谈话。

述連構造を用いた(24')は、“加入谈话”(話に加わる)という動作行為が後続する状況でV₁(“过来”)V₂(“坐下”)という2つのフレーズを用いているため、煩雑な表現となっている。ここでは、(24)のように述補構造を用いて2つのイベントを統合し、後続する動作行為をスムーズに展開させることが望ましい。逆行型はDによって表される移動の完結とともに姿勢動詞で表される姿勢への移行が実現し、その結果生じた姿勢の状態が持続する中で次の動作が生起するという文脈に用いられやすい。

- (25) 方枪枪跪上床叠着自己被子, 闻闻被里。(王朔《看上去很美》)
 (方槍槍はベッドに跪き, 自分の布団を畳みながら, 布団の中の臭いを嗅いだ。)
- (26) 商店里的店员和顾客也都站出来张望。(阿城《棋王》)
 (店の中の店員と客もみな出て来て立って眺めていた。)

既述したように、述補構造は姿勢動詞が表す姿勢の局面を特に取り立てることがなく、その意味的な重点は移動にあるため、後続する動作行為をスムーズに展開させることが可能であると考えられる。

ここまで、述補構造と述連構造の置換が困難であるケースを意味的要因、構造的要因から考察してきた。述連構造では意味の重点がV₂である姿勢動詞にあり、当該の姿勢動詞は多くの場合において字義どおりの意味を表し、典型的には姿勢の変更や姿勢の持続を表す文法形式を伴う。つまり、述連構造における姿勢動詞は姿勢の変更や姿勢の持続といった姿勢の局面を取り立てて表現するのである。そのため、述補構造の姿勢動詞が原義から遠ざかって意味拡張を起こしたり、姿勢の変更や姿勢の持続といった姿勢の局面を取り立てて表現しない場合、両構造の置換が困難となる。一方、述補構造の意味的な重点は後方のDが表す移動にあり、姿勢動詞は必ずしも姿勢の局面を取り立てて述べるものではない。これは両構造の本質的な差異である。このように、両構造には意味的にも機能的にも棲み分けがあり、逆行型述補構造がいかなる場合でも述連構造に置換できるというわけではないことがわかる。

4.2. 逆行型述補構造に見られる因果関係

以上では、述連構造との置換を通して、逆行型の意味的な重点がDの表す移動にあることを明らかにした。これは、述語動詞が結果補語を伴うVRの意味的な重点とも合致し、ここに逆行型述補構造が形成される動機を見出すことができる。即ち、言語表現者はこのような構造によってもたらされる意味的重点の要求を満たすため、姿勢動詞を前方に、Dを後方に据え、一見時間順序原則に反した形で述補構造を形成するのである。また、姿勢動詞の姿勢局面を取り立てて述べる必要がないことも述連構造で表されるような2つのイベントを統合し、述補構造という1つの複合イベント (complex event) にまとめて表現する動機の1つであろう。

さて、ここで大局的な問題に目を向けてみたい。はたして、逆行型は本当にPTSに反するものなのであろうか。上述したように、逆行型の表す事態は客観的世界においては確かに「方向補語 + 姿勢動詞」の順序で実現される。しかし、逆行型における姿勢動詞とは、Dで表される移動の前提となる目的を表すものである。

- (27) 一个年轻的医生跑进来, 见我站在地上, 严肃地说: “躺回去, 躺回去!”
 (<http://forum.book.sina.com.cn/thread-1367762-1-1.html>)
 (若い医者が駆け込んで来て、私が立っているのを見て、厳しい口調で言った。「戻って横になりなさい, 戻って横になりなさい!」)

上の例における“躺回去”では、移動後にとるべき姿勢は“躺”以外のものであってはならず、移動を遂行するのは移動後の地点で“躺”という姿勢をとるためであると考えられる。つまり、逆行型における姿勢動詞は移動前に定められた目的を表すものなのである。

そして、我々の理想化認知モデル (Idealized Cognitive Model)²⁵⁾ に照らし合わせれば、ある地点である種の姿勢をとろうとすれば、必然的にその地点までの移動が遂行されることになる²⁶⁾。つまり、原因を「プロセスを可能にする条件の一切」(瀬戸 1997b:47) というように広義にとらえれば、逆行型では「ある地点において、姿勢動詞によって表される姿勢を実現するために(因) 引き起こされた移動プロセス(果)」が表されていると考えることが可能である。即ち、一見 PTS に反した意味関係を表すかのように見える当該の述補構造も、概念化者(ここでは言語表現者や話し手)による概念化によって、論理レベルにおける PTS に則った因果関係を形成し、述補構造を構成しているのである²⁷⁾。この因果関係こそが2つのイベントを1つの有機的な複合イベントにまとめあげていると考えられる。最後に次の例を見られたい。

(28) 我丝毫不记得自己是怎么躺上了那张床,但是我屁股上现在冷飕飕的,仿佛涂上去的酒精还没有完全挥发。(王小波《未来世界》)

(私はなぜ自分がそのベッドに横たわっているのか少しも覚えていなかったが、今はお尻がスースーしていて、塗布されたアルコールがまだ完全に蒸発していないかのようだった。)

上の例では、移動主体が目を覚ました後、自身の眼前の状況、即ち“躺”という姿勢をとっていることに気付き、この状況を発端として自分がベッドの上に移動することになった経緯を思い起こそうとしているのである。即ち、姿勢動詞で表される目下の状況が原因となり、この状況によって引き起こされた結果としての移動がどのように起こったのかを想起しているのである。

5. おわりに

本稿では逆行型述補構造について、述連構造との置換が難しいケースを意味的要因、構文的要因から考察し、両構造の本質的な差異を明らかにした。述連構造では意味の重点が姿勢動詞の表す姿勢局面に置かれる。一方、述補構造の意味的な重点は方向補語の表す移動に置かれ、構造全体で姿勢動詞の表す姿勢の実現を目的とした移動が表される。

また、逆行型述補構造は一見時間順序原則に反するかのように見えるが、実は「ある地点において、姿勢動詞によって表される姿勢を実現するために(因) 引き起こされた移動プロセス(果)」を表し、ここに時間順序原則に則った因果関係という意味関係を見出すことができる。

注

- 1) 「時間順序原則」については次節で説明を行う。
- 2) 本稿では用例を掲載する際、必要に応じて述語動詞を囲み線、方向補語を下線で標記する。
- 3) 刘月华 1996:129, 刘月华主编 1998:2, 杉村 2000:151, 木村 2000:29, 张伯江 2000:34, ラマール 2008:109 等。
- 4) なお、先行研究には袁毓林 1994:191-192 のように「時間順序原則は節と節の間の語順には比較的高い説明力をもつが、フレーズの語順については説明力が大幅に低下する」と述べ、時間順序原則の適用範囲に制限があることを指摘する研究者も存在する。
- 5) しかしまた、Vの表す目的性には強弱の差があり、(4)のVのように目的性の強いものは“为什么而趋来”で問うことができるが、目的性の弱いものはこの操作が不可能であり、“趋来动”への置換のみが成立するという。詳しくは肖国政・邢福义 1992:577 を参照されたい。
- 6) 注 25) を参照。
- 7) “送(送る), 偷(盗む), 杀(殺す)”のように、「一定の結果を達成するよう志向されており、この結果が達成されてしまった後には、動作は継続していることができない」とされる(ヤーホントフ 1987:128-129)。
- 8) “走(歩く), 等(待つ)”のように、「一定の結果という観念のようなものとは関連のない動作や、結果とは切り離された動作を意味する動詞」で、「このような動作によって表される動作は、論理的には結果を生じないままに、無限に持続しうるものである」とされる(ヤーホントフ 1987:130)。
- 9) 動詞の後に継続を表す時量目的語が伴われる場合しか付加されないとされる(ヤーホントフ 1987:133)。
- 10) 方向補語のことを指す。
- 11) 李临定 1985:7-8 が挙げる「動態の構文」, 「静態の構文」とは以下のようなものである。
 [動態の構文]: 名詞₁ + 正 + 動詞 + 名詞₂ + 呢
 [静態の構文]: I: 名詞 + 動詞 + 着 + 呢
 II: 名詞 + 場所 + 動詞 + 着 + 呢
 III: 場所 + 動詞 + 着 + 名詞
 IV: 名詞₁ + 動詞 + 着 + 名詞₂
 静態の構文については“他在床上躺着呢”(彼はベッドで横になっている)、“床上躺着一个人”(ベッドに人が一人横たわっている)のような例が挙げられているが、動態の構文については用例が挙げておらず、姿勢動詞の動態機能がどのようなものを指すかは明示されていない。
- 12) 時相構造は、「文の単純命題の内在的時間特徴を表すものであり、主に述語動詞の語彙の意味によって決定される」と説明される(陈平 1988:401)。
- 13) 本稿は、姿勢動詞が姿勢の持続を表す場合に“着”というアスペクトマーカーを伴うことが多いのは、姿勢動詞が姿勢の持続を表す能力に乏しいからであると考える。
- 14) また、「姿勢動詞は、移動動詞とよく似ている。両者とも主体と空間との関係の変化を言い表していて、広い意味での移動を表している」(彭広陸 2000:64, 傍点は筆者による)のような言及も見られる。
- 15) 奥田 1994:36 は「すわる, たつ, しゃがむ, ねころぶ」のような動詞について、「これらの動詞は、主体の姿勢に変更をもたらす、ふるまい動作をとらえている。そして、その継続相においては、ふるまい動作の結果としての姿勢をいいあらわしている。完成相においては、姿勢に変更のあったこと、つまり、あたらしい姿勢=状態の実現をいいあらわしている」と述べている。なお、奥田 1994, 奥田 1997 は日本語の姿勢動詞を動作動詞と変化動詞の混合型とし、工藤 1995

- はこれを 主体変化動詞に分類し、彭広陸 2000 は動作動詞であるが、状態の意味特徴をもつものと考えている。
- 16) “你坐吧。”(「座って下さい。」) は可能であるが、これは姿勢動詞の中でも“坐”に限られる。
- 17) 「#」は文法的であるが、置換後、元の文との意味に有意な変化が生じたことを意味する。
- 18) 一方、述補構造“坐进来”が[図2]のような物理的境界を有する空間内部への移動を表す用例は存在する。
 这茶室，夏天才好，坐进来，很清凉，连冷气都不用开，人的心境很平静。(岑凯伦《蜜糖儿》)
 (この茶室は夏にもってこいで、入って座ると涼しくて、冷房をつける必要もない。気分も落ち着く。)
- 19) インフォーマントによると、述連構造では“躺”が“好”のような結果補語を伴わないと座りが悪いという。
- 20) “进”，“进来/去”および“进”+場所名詞」を指す。
- 21) メトニミーの定義は瀬戸 1997a, 瀬戸 2005 に依拠する。瀬戸 2005:117 はメトニミーを「(現実)世界の中で隣接関係にあるものとの間で、一方から他方へ指示が横すべりする現象である」と定義している。
- 22) 2つ以上の場合もある。
- 23) 《北京大学汉语语言学研究中心现代汉语语料库》から該当する用例 677 例を採取した。
- 24) 「“到”+場所名詞」や方向補語“下来/去”も述連構造の V₂ となる姿勢動詞に後続し、姿勢の変更を表す。
 她生孩子时，刚从产房出来躺到病床上，何碧辉来了，问她感觉怎么样，她说很好。(《报刊精选》1994)
 (彼女が出産した時、分娩室から出て来て病室のベッドに横になるやいなや、何碧輝が来て気分はどうかと尋ねた。彼女は良好だと答えた。)
 我奔过去蹲下来。(石言《秋雪湖之恋》)
 (私は駆けて行ってしゃがんだ。)
- 25) 吉村 2002:252 によると、理想化認知モデルは「対象の意味づけに際し、①種々の背景的要因をもとに、②単純化・理想化して対象を捉える知識モデル」と説明される。
- 26) この点は王红旗 2002:11 がつとに指摘している。第2節を参照されたい。
- 27) 高増霞 2005:28 は、“语言结构上的象似都是一种经过抽象概括过的象似，而不是真正的、完全和客观实际一模一样的象似”(言語構造における類像性とは全て抽象的な概括を経た類像性であり、客観的事実と真の意味でまったく同様の類像性ではない)と述べている。

参考文献

- 荒川清秀 「中国語の状態動詞」『愛知大学文学論叢』 第65輯 1980. pp. 350-325.
 ——— 「“坐进来”と“送回去”——“坐”“站”“躺”+方向補語にみられる三つのタイプ」日中対照言語学会編『中国語の補語』白帝社 2006. pp. 1-20.
 陈平 「论现代汉语时间系统的三元结构」『中国语文』 第6期 1988. pp. 401-422.
 高増霞 「连动结构的隐喻层面」『世界汉语教学』 第1期 2005. pp. 22-31.
 彭広陸 「日中両国語における姿勢動詞の比較」日中言語対照研究会編『日中言語対照研究論集』 第2号 白帝社 2000. pp. 47-71.
 柯理思 「汉语空间位移事件的语言表达——兼论述趋式的几个问题」『現代中国語研究』 第5期

2003. pp. 1-18.
- 木村英樹 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』247号 2000. pp.19-39.
- 工藤真由美 『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現——』ひつじ書房 1995.
- 李临定 「动词的动态功能和静态功能」『汉语学习』第1期 1985. pp. 6-10.
- 『现代汉语动词』北京：中国社会科学出版社 1990.
- 刘月华 「趋向补语前动词之研究」『第五届国际汉语教学讨论会论文集』1996. pp.128-138.
- 刘月华主编 『趋向补语通释』北京：北京语言文化大学出版社 1998.
- 孟琮 「动趋式语义举例」中国社会科学院语言研究所现代汉语研究室编『句型和动词』北京：语文出版社 1987. pp.242-266.
- 奥田靖雄 「講座・教師のための文法 動詞の終止形（その2）」『教育国語』第2期・12号 1994. pp.27-42.
- 「動詞（その一）——その一般的な特徴づけ——」『日本語学論説資料』34・第2分冊〔文法〕1997. pp.266-270.
- ラマルル・クリスティーン 「中国語の位置変化文とヴォイス」生越直樹他編著『ヴォイスの対照研究：東アジア諸語からの視点』くろしお出版 2008. pp.109-142.
- 瀬戸賢一 「意味のレトリック」卷下吉夫・瀬戸賢一著『文化と発想とレトリック』研究社出版 1997a. pp.93-177.
- 『認識のレトリック』海鳴社 1997b.
- 『よくわかる比喩——ことばの根っこをもっと知ろう』研究社 2005.
- 沈立新 「“V₁着V₂”结构句式“连动”属性的质疑」『楚雄师范学院学报』第1期 2004. pp.40-42.
- 杉村博文 「“走进来”について」『荒屋勸教授古希記念中国語論集』白帝社 2000. pp.151-164.
- 「中国語における姿勢形成と空間移動」影山太郎他編『日中理論言語学の新展望2 意味と構文』くろしお出版 2012. pp.125-143.
- Tai, James. H-Y. 1985. “Temporal Sequence and Chinese Word Order.” *Typological Studies in Language* 6: 49-72.
- 肖国政・邢福义 「同一语义指向的“动/趋来”」『华中师范学院研究生学报』第3期 1984. (本稿は、北京语言学院语言教学研究所編『现代汉语补语研究资料』北京：北京语言学院出版社 1992. pp.572-589に基づく)
- 王红旗 「语义特征及其分析的客观基础」『汉语学习』第6期 2002. pp.7-13.
- Яхонтов, С. Е. 1957. (ヤーホントフ著、橋本萬太郎訳『中国語動詞の研究』白帝社 1987.)
- 吉村公宏 「理想化認知モデル (Idealized Cognitive Model)」辻幸夫編『認知言語学キーワード事典』研究社 2002. pp.252-253
- 袁毓林 「关于认知语言学的理论思考」『中国社会科学』第1期 1994. pp.183-198.
- 张伯江 「论“把”字句的句式语义」『语言研究』第1期 2000. pp.28-40.
- 赵淑华 「连动式中动态助词“了”的位置」『语言教学与研究』第1期 1990. pp.4-10.

